

学長定例記者会見要項

日 時： 令和3年2月4日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 地域教育文化学部と小国町が連携協定を締結
～地域資源の有効活用と人材育成の推進体制強化～
2. 「新型コロナウイルスを多角的に捉える」開催
～感染症を歴史や数学などの学問分野から紐解く特別公開オンラインセミナー～
3. 若者繋がり方革命「やまがた次世代図鑑」
～未来に残す、挑戦する学生図鑑アプリを制作～

お知らせ

1. 山形大学医学部とソウル大学病院が協力協定を締結
2. 山形に伝えられた貴重な沖縄関係資料を米沢で公開
～特別展「林泉文庫の世界展－伊佐早謙がつないだ沖縄と米沢」開催～

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和3年3月4日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（2月4日）発表者

1. 地域教育文化学部と小国町が連携協定を締結

～地域資源の有効活用と人材育成の推進体制強化～

山形大学地域教育文化学部長

小国町長

小国町役場 総合政策課長

おおも 大森	かつら 桂
にしな 仁科	よういち 洋一
やまぐち 山口	ひであき 英明

2. 「新型コロナウイルスを多角的に捉える」開催

～感染症を歴史や数学などの学問分野から紐解く特別公開オンラインセミナー～

山形大学エクステンションサービス推進本部 統括責任者

これかわ 是川	はるひこ 晴彦
------------	------------

3. 若者繋がり方革命「やまがた次世代図鑑」

～未来に残す、挑戦する学生図鑑アプリを制作～

山形大学 工学部 建築・デザイン学科 4年

東北芸術工科大学 デザイン工学部 企画構想学科 4年

にいげき 新関	ひかる 耀
すずき 鈴木	いくや 郁哉

令和3年(2021年)2月4日

地域教育文化学部と小国町が連携協定を締結 ～地域資源の有効活用と人材育成の推進体制強化～

【本件のポイント】

- 山形大学地域教育文化学部と小国町は、地域社会の発展と人材育成を目的として、包括的な連携協定を本日締結した。
- 小国町教育委員会の教育政策に加えて、山形大学の学生と山形県立小国高等学校の生徒による郷土食文化の共同授業の開講など、高大連携をより充実させた。
- これらを含む、地域教育文化学部の地域社会実践型実習群の学習成果から、地域資源の有効活用やまちづくりなど、地域に根付く人材育成と付加価値を生み出す研究への発展が期待される。



【概要】

山形大学地域教育文化学部と小国町は、令和3年2月4日に連携協定を締結しました。この連携協定は、地域教育文化学部が小国町で実施してきた地域社会実践型実習群をより包括的に充実・発展させ、小国町の地域社会の発展や人材育成のために締結いたしました。これまでに、山形県立小国高等学校の生徒と山形大学の学生が小国町の郷土食文化や栄養について一緒に学習したり、道の駅のチラシデザインやイベント支援などを実施してきました。これらに加えて、農地活用や特産品開発の観点から、落花生の試験栽培、やまがた地鶏やタカキビなどの食品開発などを地域企業や山形県立小国高等学校の生徒とともに取り組んでおり、それらの実用化が地域変革のエンジンとなりうる人材育成と活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展を加速させるものと期待されています。

【背景】

山形県内の山間地方における過疎化や高齢化は、深刻な課題となっており、地域資源を活かした地域活性化が期待されています。山形大学地域教育文化学部では、「フィールドプロジェクト」や「地域ファシリテート実践演習」などの地域社会実践型実習を通じて、既に様々な地方自治体、地域企業や学校と協働し、地域活性化や町おこしを通じて、学生の卒業後の社会実践力を育成しています。その中で、小国町とは、町役場、企業や学校などを通じて、地域活性化に向けた教育や研究に関する複数の協働活動が進行しています。このような両者の連携を包括的にまとめ、今後、より強固かつ持続的に発展させていくことに合意しました。

【協定の内容】

協定の名称：小国町と山形大学地域教育文化学部との連携に関する協定

締結年月日：令和3(2021)年2月4日

期間：締結日から5年間(更新有り)

連携して協力する事項：

- (1) 教育、文化の振興に関すること。
- (2) 人材育成、国際交流に関すること。
- (3) 自然や生活環境の保全に関すること。
- (4) 地域の産業振興に関すること。
- (5) まちづくりに関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するため必要な分野に関すること。

お問い合わせ

学術研究院教授 小酒井貴晴（地域教育文化学部文化創生コース代表）

TEL 023-628-4354 メール takaharukozakai@e.yamagata-u.ac.jp

学術研究院准教授 矢口友理（スポーツ栄養学）

TEL 023-628-4333 メール y-yagu@e.yamagata-u.ac.jp

【今後の展望】

本連携協定をベースにして、今後も小国町の教育委員会を通じた教育政策の立案や実行にも協力し、地域小規模校の教育充実、高大連携の強化などを支援していきます。また、落花生、タカキビや地鶏など小国町の自然環境に適した地域産業や食資源の活用法の開発や広報など、幅広い分野での連携と支援を継続していく予定です。

既に、山形県立小国高等学校の生徒と山形大学の学生がともに小国町の食材と食文化に関して交流した協働活動の成果として、「タカキビとやまがた地鶏のメンチカツ」が考案されました。現在、地元業者の協力を得て、試作と試験販売が断続的に実施されており、その評価を反映させたのち、今年中を目途に商品販売する予定です。

このように、お互いが有する「モノ」「知」「技術」「ヒト」「ネットワーク」を集結し、地域を担う次世代人材の育成と豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目指します。政策や研究技術のみならず、高大連携の教育から社会実装の成果を生み出すモデルケースとして、極めて先駆的な取り組みです。

令和3年（2021年）2月4日

「新型コロナウイルスを多角的に捉える」開催

～感染症を歴史や数学などの学問分野から紐解く特別公開オンラインセミナー～

【本件のポイント】

- 本学名誉教授4名を講師に新型コロナウイルスをはじめとする感染症について、歴史や数学、宇宙物理の分野から考えるオンラインセミナーです。
- 「ZOOM」ウェビナーと「YouTubeLive」による配信で実施します。自宅にいなから山形大学の講義を受講できます。
- エクステンションサービス推進本部が主催します。特別公開オンラインセミナーは昨年11月開催の「山形から新型コロナウイルスを考える」に続き2回目です。



【概要】

新型コロナウイルスや感染症について、医学や経済学とは異なる視点で捉えた特別公開オンラインセミナーを開催します。講師は本学の名誉教授4名が担当し、歴史、数学、宇宙物理といった、一見すると関係がないような学問分野から紐解いていく内容です。多角的に捉えることで未知のウイルスに立ち向かうヒントを得るとともに、身近な問題と学問を繋げることで、学ぶ面白さを知るきっかけになればと考えています。参加費は無料で、オンライン会議システム「ZOOM」のウェビナー機能とYouTubeLiveで配信をするオンラインセミナーです。インターネットを利用できる方は、どなたでも受講可能です。

【開催要項】

日時：令和3年3月13日（土）13時00分開会 16時50分終了予定

会場：オンライン（Zoom ウェビナーとYouTubeLiveで配信します）

参加費：無料

講義時間・担当講師・講義タイトル：

13:05～13:50 松尾剛次 名誉教授「感染症と仏教－ライ病と穢れ」

14:05～14:50 岩鼻通明 名誉教授「修験道と民俗－前近代の感染症対応について」

15:05～15:50 河村新蔵 名誉教授「新型コロナ禍における統計と予測」

16:05～16:50 柴田晋平 名誉教授「宇宙の進化と感染のコンピュータシミュレーション」

【申込方法】

下記の応募フォームからお申込みください。

URL：<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/area/education/002/>

申込受付の締切：3月11日（木）まで。

受講申込者には、本セミナー参加に必要な情報を、開催日の前日までにメールでお伝えします。

【エクステンションサービス推進本部について】

地域社会のニーズに基づき、大学の幅広い知見を生かした地域社会のための教育を一元的に提供する新組織として、昨年8月1日に立ち上がりました。社会人のスキルアップや、人生100年時代に需要が高まる生涯教育など、各世代が求める学びの機会をオーダーメイド教育プログラムとして提供していくことを目的としています。これまでは、昨年11月の第1回特別公開オンラインセミナー「山形から新型コロナウイルスを考える」を開催しました。現在は、民間企業向けのセミナーや自治体と連携した講義を企画しております。

お問い合わせ

エクステンションサービス推進本部

TEL 023-628-4779 メール y-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

猛威を振るう新型コロナウイルスを歴史や数学、宇宙物理など、医療や経済とは異なる角度で捉え、未知のウイルスへ立ち向かうヒントを得るための特別公開オンラインセミナーです。

山形大学による講義を自宅で気軽に受講できます。
身近な問題を様々な領域から紐解いていきましょう。



山形大学
Yamagata University

第二回特別公開オンラインセミナー

多角的に捉える 新型コロナウイルスを

日時
2021.3.13^土 13:00~

受講方法 オンライン [オンライン会議システム「Zoom」と「YouTubeLive」で配信します]

※「Zoom」と「YouTubeLive」いずれかの、参加しやすい方法で受講してください。
「Zoom」はパソコンやスマート端末(スマホやタブレット等)で使用できるオンライン会議システムです。使用方法などはZoomのホームページ等で事前にご確認ください。

対象 一般 [「Zoom」や「YouTubeLive」を視聴できるインターネット環境のある方]

講義内容・担当講師・時間割

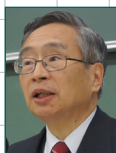
※興味のある講義を自由に受講できます。1講義から複数科目の受講も可能です。

13:05~

感染症と仏教

ーライ病と穢れ

講師 松尾剛次 [山形大学名誉教授] (日本宗教学)



過去の人々は、感染症にどのように立ち向かってきたのでしょうか。ライ病などと仏教者との関係に注目して、お話しします。

14:05~

修験道と民俗

ー前近代の感染症対応について

講師 岩鼻通明 [山形大学名誉教授] (人文地理学)



修験者は、まじない・おはらい・うらないを生業としてきました。医学が未発達な時代に病気を治すのは神頼みだったので。でも、霊山の山中に生育する薬草を見つけて信者に配ることもありました。

15:05~

新型コロナ禍における統計と予測

講師 河村新蔵 [山形大学名誉教授] (数学・解析学)



毎日のニュースは新型コロナ関連統計数値に埋め尽くされています。新たな感染者数、重症者数、そして今後の予測。この講義では数値と予測の私達にとっての意味について数学的、科学的に考えてみます。

16:05~

宇宙の進化と感染のコンピュータシミュレーション

講師 柴田晋平 [山形大学名誉教授] (宇宙物理学)



宇宙は約140億年前に誕生しました。その後、現在に至る進化はコンピュータシミュレーションで研究します。同じ手法が感染拡大の理解に非常役立つことを示します。

申込方法

申込フォーム ※必要事項をご記入の上、送信してください。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/area/education/002/>

申込受付の締切 3月11日(木)

受講申込者には、本セミナー参加に必要な情報を、前日までにメールでお伝えいたします。



参加無料

事前予約

問い合わせ

[エクステンションサービス推進本部]

☎023-628-4779

✉y-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



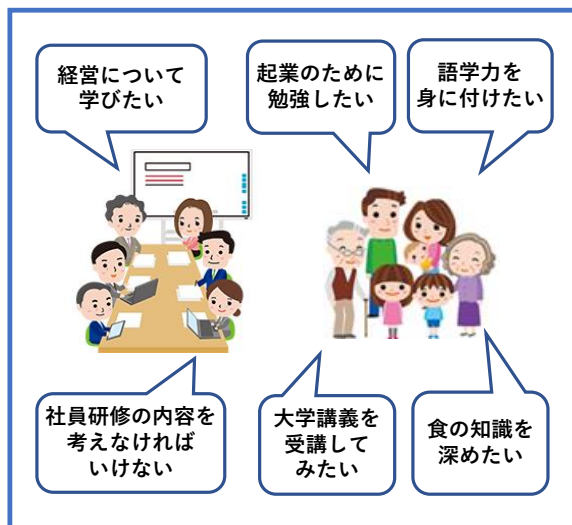
山形大学エクステンションサービス推進本部

Yamagata University extension service organization (YEX)

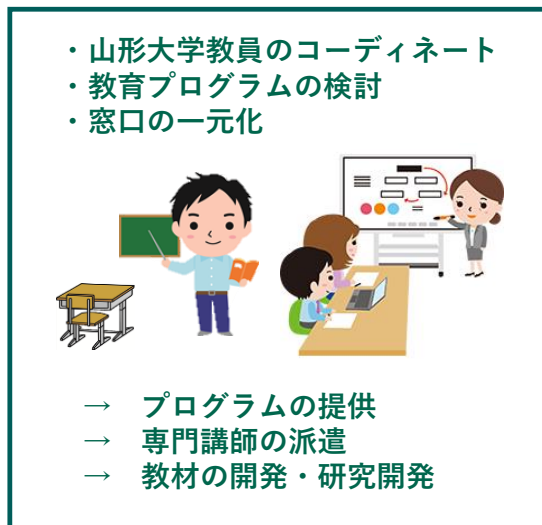
～企業・自治体・県民の皆様のニーズをお寄せください～

企業・自治体・地域の住民等のニーズに合わせて山形大学のコンテンツサービスからオーダーメイドのプログラムなどつくり提供いたします。

地域社会のニーズ・課題



山形大学エクステンションサービス推進本部



～山形大学が作るコンテンツサービス～



世界を知る



ビジネス研修



地域と文化



教養



くらしと健康



外国語と海外文化

山形大学の教員・研究者や保有する教育プログラムを基に検討したのち、みなさまのご希望するプログラムをご提案させていただきます。また、ご検討のプログラムが既にある場合は担当できる教員をご紹介します。地域社会とともに地域の人材育成を担う教育拠点として、ぜひ、まずは山形大学エクステンションサービス推進本部にご相談ください！

(問合せ) 山形大学エクステンションサービス推進本部

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12 小白川キャンパス内

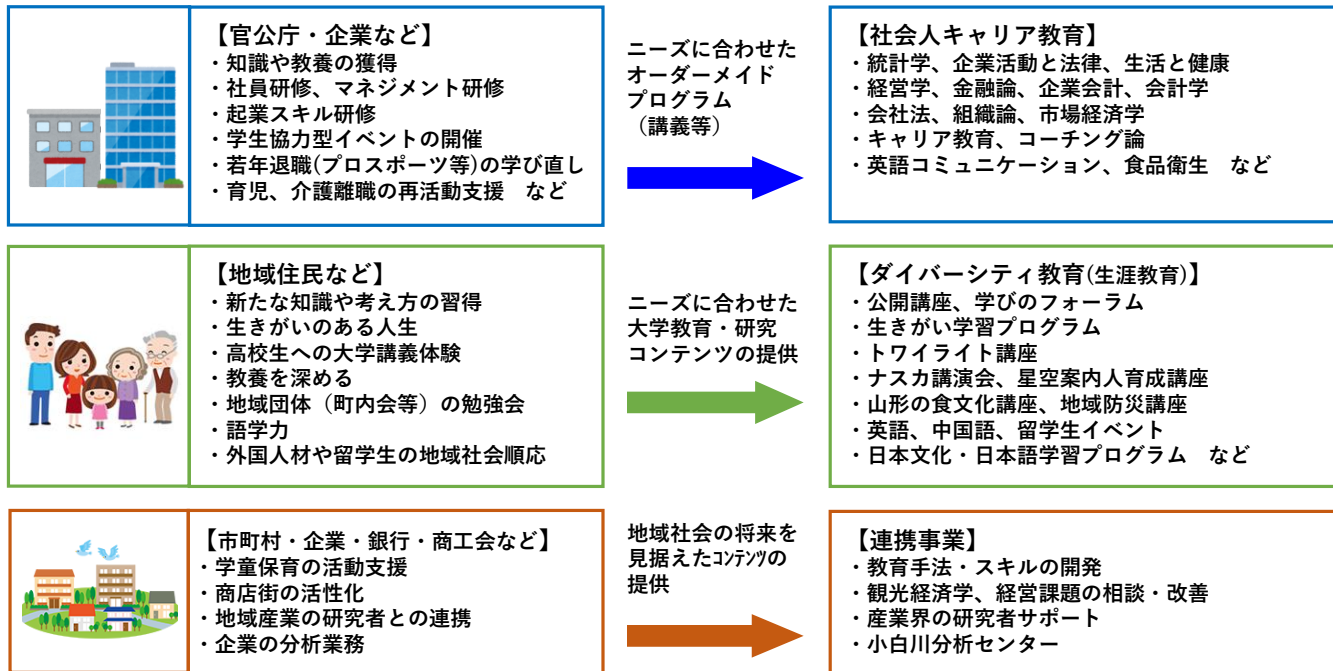
TEL&FAX : 023-628-4779

E-mail : y-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL : <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/area/education/>



▼ ニーズに対する山形大学のサービスコンテンツの例



この他にも様々なニーズに応えられるよう、教員とともに検討させていただきます。ご検討されている教育プログラム等がありましたらご遠慮なくご相談ください。

～ これまでの取組み実施例 ～



きらやかマネジメントスクール (社会人キャリア教育)

きらやか銀行と山形大学の連携授業

対象者：企業の若手経営者、後継者、幹部社員

特長：企業課題を見つけ出し課題解決のヒントを得て、具体的解決策を講じることができる知識・技術の習得を図ります。



トワイライト開放講座 (ダイバーシティ教育)

山形大学小白川キャンパスで開講している授業科目を高校生にも広く開放しています。

大学生と一緒に様々な講義を体験できる機会を提供しています。

連携協力に関する協定締



NIE (Newspaper in Education) 連携事業

山形新聞社との相互連携協力に関する協定

NIE (教育に新聞を) の展開のため、講義「新聞で山形を知る」を開講しています。

社会の課題解決や地域で活躍する人材育成を行っています。

令和3年（2021年）2月4日

若者繋がり方革命「やまがた次世代図鑑」

～未来に残す、挑戦する学生図鑑アプリを制作～

【本件のポイント】

- 卒業後に残りにくい学生の地域活動を見える化し、未来に「残す」メディアアプリを制作。
- 山形大生や芸工大生をはじめとする県内の大学生、高校生など様々な地域、所属、年齢の学生を図鑑に掲載し、学生同士を繋げるプラットフォームを構築することで、山形県全域で交流の促進を図る。
- 地域の企業や市民、自治体等に認知されないケースも多い学生活動を可視化することで、地域との間で新たな可能性の好循環を生み出す仕組み作りの第一歩として図鑑をリリースする。



【概要】

山形大学や東北芸術工科大学の学生らが運営メンバーとして活動する「やまもの^(※1)」が、「若者の豊かな挑戦で溢れる山形へ」をビジョンに掲げ、山形で新たな挑戦をしている学生にフォーカスし、まとめた学生図鑑ウェブアプリ(<https://jisedaizukan-y.glideapp.io/>)を制作しました。学内外問わず、卒業とともに引き継がれにくい学生の価値ある「活動」や「想い」を、未来の山形で学ぶ学生にとってのロールモデルへと昇華し、代々受け継がれるプラットフォームを構築しました。学生図鑑に加え、検索機能や学生イベント・ボランティア等の募集掲載、お役立ち情報などのコンテンツを用意し、学生が山形で新しい挑戦を始めたり、もっと若者と繋がりを持ちたいと考える地域の方々に役立ててもらえるようなアプリになっています。学生の様々な活動を見える化することで地域との新たな繋がりを生み出すきっかけになるとともに、学生目線の取り組みを通して山形の魅力を広く発信することで、地域活性化への貢献にも繋がることを期待しています。

【背景】

「やまがた次世代会」の設立

大学入学を機に山形で暮らしはじめ、「山形には何もない」と口にしてしている学生に多く出会った。しかし、「新しい何かを作ろうと頑張る学生も少なからずいるのではないか」と思い、山形大、芸工大の仲間とともに、2018年9月、学生や社会人の交流イベント「やまがた次世代会」を初めて開催。現在は、山形大や芸工大の他、米沢女子短期大学や東北公益文科大学の学生、県内の高校生などを含め100人以上が参加するグループになっている。

「やまもの」発足、グループからコミュニティを目指して

山形で頑張る学生のグループ作りは達成したものの、一人ひとりの「活動」や「想い」をアウトプットでき、交流できるコミュニティではないことに気付いた。そこで2020年2月、そういった学生をはじめ若者をピックアップし発信するプロジェクトチーム「やまもの」を新たに設立。自身の活動をもっと表に発信したい学生や活動の価値に気付いていない学生をピックアップし、Instagramで発信を開始したことから当プロジェクトが始まった。

お問い合わせ

「やまもの」

メール：yamagatajisedai2020@gmail.com（代表／鈴木）

【活動について】

学生取材活動

活動開始当初、インスタグラムで行っていた学生紹介をベースに、学生の活動をロールモデルとしたメディアを作るべく、図鑑アプリ制作へ移行。やまものメンバー独自の視点でピックアップした活動的な学生にインタビューを行い、図鑑の制作を行った。

図鑑に掲載される学生と図鑑を見る学生の距離を縮めるための企画として、オンライントークイベント「やまものトーク」を実施。ライブチャットでは毎回様々な意見が飛び交うため、新たな発見が多い。



やまものトーク 実際の様子

やまがた次世代図鑑プロジェクトが生んだきっかけ

企画を通して、新たな挑戦に繋がる学生同士の出逢いが多くあった。山形で頑張る学生の挑戦や隠れた背景などを紐解き、新たな出逢いをプロデュースするメディアとして今後も活動を続けていく。

【今後の展望】

新型コロナウイルスの影響で、人に直接会うことが難しいからこそ、「人を知るメディア」の価値は高いと感じている。当時の私たちのような繋がりを求める学生が、この「やまがた次世代図鑑」を通して山形で価値を作った同年代の若者と出逢うことができ、さらに豊かな挑戦に繋がるきっかけ作りに貢献できると考える。

図鑑の運営や更新を続けながら、これまで認知されていなかった地域の企業や市民、自治体等へも学生活動の認知を広げ、可能性の好循環へ繋げるべく、企業や行政等と連携した企画も今後リリース予定だ。

挑戦の数が増えることで、山形にとって若者の地域活動が当たり前になり、活動が事業へ変化し、若者が作る仕事で溢れる街の未来を夢見ている。

※用語解説

1. やまもの：やまがたで頑張る「わかもの」「ばかもの」「よそもの」の総称を「やまもの」とし、チーム名に起用。やまもの運営メンバー：東北芸術工科大学 デザイン工学部 企画構想学科4年・鈴木郁哉（代表）、コミュニティデザイン学科3年・三宅優希、山形大学 工学部 建築デザイン学科4年・新関耀、地域教育文化学部 地域教育文化学科（卒業生）・北村真菜（2021年2月現在）

令和3年(2021年)2月4日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 山形大学医学部とソウル大学病院が協力協定を締結

山形大学医学部とソウル大学病院は、重粒子線治療と放射線及び生物医学研究における友好関係と国際協力を推進することを目的として、令和3年1月19日に協力協定を締結しました。今後、本協定に基づき、研究者の交流をはじめ両機関の連携を推進します。

2. 山形に伝えられた貴重な沖縄関係資料を米沢で公開

～特別展「林泉文庫の世界展－伊佐早謙がつないだ沖縄と米沢」開催～

山形大学附属博物館は市立米沢図書館と共催で、特別展「林泉文庫の世界展－伊佐早謙がつないだ沖縄と米沢」を米沢市で開催します。米沢出身の郷土史家・伊佐早謙が収集した膨大な蔵書「林泉文庫」の世界、米沢と沖縄との深い関わりを紹介します。

会期：令和3年2月27日（土）～3月14日（日）[会期中無休]

開館時間：10時～17時

会場：ナセ BA（米沢市中央 1-10-6）1階よねざわ市民ギャラリー第8・9展示室

【関連企画】

先人顕彰展示「郷土史家 伊佐早謙」

会期：令和3年1月29日（金）～3月24日（水）[休館2月1日（月）～7日（日）、25日（木）]

開館時間：平日10時～19時、土日祝日9時～19時

会場：ナセ BA 中2階 先人顕彰コーナー

講演会「伊佐早謙 膨大な蔵書と資料収集の足跡」

日時：令和3年3月7日（日） 13時30分～15時

講師：青木 昭博氏（市立米沢図書館副館長）

会場：ナセ BA 1階 体験学習室

申込：市立米沢図書館 郷土資料担当（受付時間：9時～17時）2月8日から受付開始

令和3年(2021)年2月4日

山形大学医学部とソウル大学病院が協力協定を締結

【本件のポイント】

- 重粒子線治療に係る交流と連携・協力の推進によって、科学情報の交換や次世代の人材を育成する。
- 山形大学医学部が、粒子線治療に関し韓国の機関と協定を締結するのは今回で2例目。

【概要】

山形大学医学部（学部長：上野 義之）とソウル大学病院（大韓民国・病院長：ヨン ス キム）は、重粒子線治療と放射線及び生物医学研究における友好関係と国際協力を推進することを目的として、協力協定を令和 3(2021)年 1 月 19 日に締結しました。協定期間は、5 年間（更新有り）です。
今後、本協定に基づき、研究者の交流を始め、両機関の連携を推進いたします。

【協定締結の経緯】

山形大学医学部では、東日本重粒子センターの稼働準備を進めており、粒子線治療の一形態として位置づけられる炭素原子核を用いた重粒子線治療を間もなく開始します。今年 2 月から前立腺がんの照射治療を開始し、8 月以降には、順次他の臓器のがん照射治療を開始することにしています。

ソウル大学病院では、山形大学が導入した重粒子線がん治療装置「山形モデル」をベースとした粒子線治療装置導入を決定し、昨年、東芝エネルギーシステムズ株式会社と受発注契約を締結いたしました。2024 年には重粒子線治療を含む粒子線治療開始を目標としています。

これにより、互いに粒子線治療の発展と放射線医学及び生物医学の研究について協力して推進することが可能となり、本協定を締結したものです。

本来であれば、両者対面にて協定締結式に臨むところですが、コロナ禍中であることを考慮し、郵送により両社サインによる協定締結の運びとなりました。

国立大学法人山形大学医学部は、医学科と看護学科の 2 学科の教育組織と 630 床の総合附属病院及び東北北海道地域唯一の重粒子線治療施設を有する東北地方有数の医学教育機関です。一方、ソウル大学病院は、1,700 床余を有する総合病院で、以前はソウル国立大学医学部の附属病院でしたが、現在は、特殊法人として独立した機関になっております。重粒子線治療施設は釜山市に設置することになっており、これが稼働すれば、韓国 2 例目となります。

【協定の内容について】

締結日：令和 3(2021)年 1 月 19 日

目的：山形大学医学部とソウル大学病院は教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進によって、互いの教育・研究の一層の進展と次世代を担う人材の育成に資することを目的とする。

期間：締結日から5年間（更新有り）

連携事項：両機関は、次に掲げる活動で協力いたします。

- (1) 科学情報の交換
- (2) 教員、研究者及び専門家の交流
- (3) 人材育成
- (4) 共同研究
- (5) 双方の施設及び設備の相互利用
- (6) その他両者で協議・決定した事項

【今後の取り組み】

コロナ感染状況に留意し、リモート会議やメール等を用いた情報交換等を進めていきます。コロナ後は、山形大学で研究員等を受入れ、ソウル大学病院での治療開始に必要な研修・経験を積ませる等の交流を進めていく予定にしております。

お問い合わせ

山形大学医学部東日本重粒子センター

TEL 023-628-5404 メール heavy-ion@mws.id.yamagata-u.ac.jp

令和3年（2021年）2月4日

山形に伝えられた貴重な沖縄関係資料を米沢で公開 ～特別展「林泉文庫の世界展－伊佐早謙がつないだ沖縄と米沢」開催～

【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館は市立米沢図書館と共催で、2月27日から米沢市において特別展「林泉文庫の世界展－伊佐早謙がつないだ沖縄と米沢」を開催します（3月14日まで）。
- 米沢出身の郷土史家・伊佐早謙（1858～1930）が収集した膨大な蔵書である「林泉文庫」は山形県内の博物館・図書館に分割して所蔵されています。
- 「林泉文庫」には、沖縄では戦争によって失われてしまった貴重な資料が多数あります。これらの資料と、米沢と沖縄との深い関わりを紹介します。



伊佐早謙肖像写真（個人蔵）

【概要】

郷土史家であり、市立米沢図書館第二代館長であった伊佐早謙（1858～1930）。その蔵書である「林泉文庫」は、市立米沢図書館をはじめ山形大学小白川図書館、山形県立公立大学法人附属図書館、白鷹町龍門図書館等に収められ、活用されてきました。平成25年（2013年）のうるま市立図書館の琉球漢詩文の調査および展示会の開催によって、林泉文庫には沖縄の方々にも知られていなかった貴重な琉球関係資料が遺されていることが明らかになりました。伊佐早謙が収集した琉球漢詩文を展示することによって、米沢市民の皆様にも林泉文庫が有する価値を紹介します。

【展示の概要】

主 催：公益財団法人米沢上杉文化振興財団・山形大学附属博物館
後 援：うるま市教育委員会
協 力：山形大学小白川図書館
助 成：国立歴史民俗博物館「総合資料学の創成」にかかる奨励研究
会 期：令和3年2月27日（土）～3月14日（日）[会期中無休]
開館時間：10時～17時
会 場：ナセBA（米沢市中央1-10-6）1階よねざわ市民ギャラリー第8・9展示室

【関連企画】

先人顕彰展示「郷土史家 伊佐早謙」

会 期：令和3年1月29日（金）～3月24日（水）[休館日 2月1日（月）～7日（日）、25日（木）]
開館時間：平日10時～19時、土日祝日9時～19時
会 場：ナセBA中2階 先人顕彰コーナー

講演会「伊佐早謙 膨大な蔵書と資料収集の足跡」

日 時：令和3年3月7日（日） 13時30分～15時
講 師：青木 昭博氏（市立米沢図書館副館長）
会 場：ナセBA 1階 体験学習室

申 込：市立米沢図書館 郷土資料担当（受付時間：9時～17時）2月8日から受付開始

TEL：0238-26-3010 / FAX：0238-26-3012 / MAIL：tosyokan@library.yonezawa.yamagata.jp

お問い合わせ

山形大学附属博物館 学芸研究員 佐藤琴

TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

入場無料



《扁額 林泉文庫》個人蔵

2021年

2月27日(土)~3月14日(日) 会期中無休

[展示時間] 10:00~17:00

[展示会場] ナセ BA 1階 よねざわ市民ギャラリー第8・9展示室

同時開催

先人顕彰展示「郷土史家 伊佐早謙」

1月29日(金)~3月24日(水) 休館日2月1日(月)~7日(日)、25日(木)

[展示時間] (平日) 10:00~19:00 (土日祝日) 9:00~19:00

[展示会場] ナセ BA 中2階 先人顕彰コーナー

林泉文庫の世界展

伊佐早謙がつないだ沖縄と米沢

令和2年度 よねざわ市民ギャラリー自主事業

主催
公益財団法人米沢上杉文化振興財団
山形大学附属博物館

後援
うるま市教育委員会

協力
山形大学小白川図書館
国立歴史民俗博物館メタ資料科学研究センター



《御詩和韻集》市立米沢図書館蔵

《林泉文庫高麗書及書目》山形大学小白川図書館蔵



《写真 伊佐早謙》(部分) 市立米沢図書館蔵

関連行事 (受講無料・要事前申込)

講演会「伊佐早謙 膨大な蔵書と資料収集の足跡」

[講師] 青木昭博 (市立米沢図書館 副館長)

[日時] 3月7日(日) 13:30~15:00 [会場] ナセ BA 1階 体験学習室

[定員] 30名 [受付開始] 2月8日(月) 先着順

お問合せ・講演会のお申込み

市立米沢図書館 郷土資料担当 (受付時間 9:00~17:00)

[電話] 0238-26-3010 [FAX] 0238-26-3012

[Mail] tosyokan@library.yonezawa.yamagata.jp

ナセBA

市立米沢図書館 Book & Art よねざわ市民ギャラリー

[住所]

〒992-0045 山形県米沢市中央 1-10-6

[交通案内]

JR 米沢駅から 1.5 km (市民文化会館となり)

市内循環バス左回り路線「ナセ BA 前」下車

JR 米沢駅からタクシーで約 5 分

林泉文庫の世界展

伊佐早謙がつないだ沖縄と米沢

令和2年度 よねざわ市民ギャラリー自主事業

入場無料

主催
公益財団法人米沢上杉文化振興財団
山形大学附属博物館

後援
うるま市教育委員会

協力
山形大学小白川図書館
国立歴史民俗博物館メタ資料科学研究センター

2021年

2月27日(土)～3月14日(日) 会期中無休

[展示時間] 10:00～17:00

[展示会場] ナセ BA 1階 よねざわ市民ギャラリー第8・9展示室

近代山形を代表する郷土史家で、市立米沢図書館の創立にも深く関わった伊佐早謙。その蔵書である「林泉文庫」は、市立米沢図書館をはじめ、山形大学小白川図書館、山形県公立大学法人附属図書館、白鷹町龍門文庫等に収蔵されています。

近年の研究成果を踏まえ、伊佐早の知の集積の一端を、沖縄と米沢のつながりにスポットをあてて展示します。



《縦軒稿》(部分) 市立米沢図書館蔵

同時開催

先人顕彰展示「郷土史家 伊佐早謙」

1月29日(金)～3月24日(水) 休館日 2月1日(月)～7日(日)、25日(木)

[展示時間] (平日) 10:00～19:00 (土日祝日) 9:00～19:00

[展示会場] ナセ BA 中2階 先人顕彰コーナー

ギャラリー展示にあわせて、中二階の先人顕彰コーナーでは、伊佐早謙の業績について紹介します。伊佐早は、市立米沢図書館の第二代館長として、史料の収集や、貴重書の保管のために石倉(珍書文庫)の建設をするなど、図書館草創期において館の運営に尽力します。当館に残る伊佐早の資料より、その功績について紹介します。



《珍書文庫建設文》(部分) 市立米沢図書館蔵

関連行事(受講無料・要事前申込)

講演会「伊佐早謙 膨大な蔵書と資料収集の足跡」

[講師] 青木昭博 (市立米沢図書館 副館長)

[日時] 3月7日(日) 13:30～15:00 [会場] ナセ BA 1階 体験学習室

[定員] 30名 [受付開始] 2月8日(月) 先着順

[住所]

〒992-0045 山形県米沢市中央 1-10-6

[交通案内]

JR 米沢駅から 1.5 km (市民文化会館となり)

市内循環バス左回り路線「ナセ BA 前」下車

JR 米沢駅からタクシーで約 5分

山形蔵王 IC・福島飯坂 IC より国道 13 号線で約 50 分

お問合せ・講演会のお申込み

市立米沢図書館 郷土資料担当

(受付時間 9:00～17:00)

[電話] 0238-26-3010

[FAX] 0238-26-3012

[Mail] tosyokan@library.yonezawa.yamagata.jp

ナセBA
市立米沢図書館 Book & Art よねざわ市民ギャラリー

